

# 加圧式保存処理木材の安全性

さんもく工業は、優れた薬剤効力と加圧注入技術のノウハウとの組み合わせによって、信頼度の高い加圧式保存処理木材を皆様に提供いたします。

## 木材の特徴

### メリット

軽くて強い  
加工しやすい  
環境に優しい  
再生できる

### デメリット

腐朽  
蟻害、虫害

▶ 保存処理が解決

保存処理木材の利用＝住宅等での木材の**使用期間が長くなる**。

**CO<sub>2</sub>を長期間貯蔵**することができる＝**地球環境保全に貢献**



## 保存処理木材のCFP（カーボンフットプリント）

日本木材防腐工業組合の格納数値です。

CFP＝二酸化炭素などの温室効果ガス排出量（CO<sub>2</sub>換算）

当組合では、加圧式保存処理木材の生産時におけるCFPを調査



土台（未乾燥） 125<sub>kg-CO<sub>2</sub>e/m<sup>3</sup></sub>



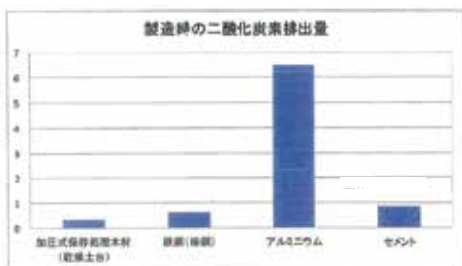
土台（乾燥） 169<sub>kg-CO<sub>2</sub>e/m<sup>3</sup></sub>



木柵 80<sub>kg-CO<sub>2</sub>e/m<sup>3</sup></sub>

## 保存処理木材のCFP（他材料との比較）

日本木材防腐工業組合の格納数値です。



加圧式保存処理木材は、他の建築資材に比べ、CO<sub>2</sub>固定効果と併せて、**製造時のCO<sub>2</sub>排出量が少ない**特徴があります。地球に優しい建築資材です。

## 使用時の安全性の確保

### ■ 人への安全 人が直接触れても悪影響はありません。

※加圧式保存処理木材に使用する保存剤の有効成分には、建築基準法で規定する有害な揮発性有機化合物（VOC）の基になるクロルピリホスを含みません。

### ■ 環境への安全 低毒素で、植物にも悪影響を及ぼさないので、農業資材など幅広い分野で使用できます。

※保存剤の溶脱試験の結果、木材中に注入された保存剤のほとんどが、木材の組織内に強く固着あるいは吸着され、水に溶けない状態になっています。したがって、短期間に環境へ流れ出る量は極めて少ないと言えます。

### ■ 廃棄処理時の安全 通常の木材と同様に焼却処分ができます。

※1998年頃以前に日本で生産された保存処理木材にはCCA（ヒ素やクロム）を含むものがありますので、廃棄物処理法にしたがって、適切に処理をしてください。